

このチラシは、伊丹市議会議員“相崎佐和子”が、市政情報などをお届けしているニュース紙です。

毎月発行（年4回はA3・その他はA4）しており、ポストイング・駅やスーパーマーケット前での配布・郵送などでお届けしています。



相崎佐和子

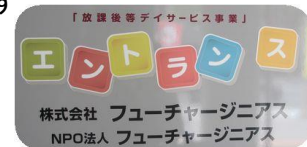
発達障がい児、いっそうの支援を！

■発達障がい、ご存知でしょうか？

“発達障がい”、お聞きになったことはあるでしょうか？ **身体や知能に著しい障害はないものの、学校生活や社会生活に困難を生じるもので、LD(学習障がい)・ADHD(注意欠陥多動性障がい)・高機能自閉症などがあります。脳機能の特徴によるもので、適切な理解と支援でスムーズに生活できるようになるとされています。文部科学省の調査ではクラスに3～4人はいるとされ、支援が急務です。**

■支援事業所「エントランス」を見学！

市内では、発達障がい児を支援する事業所が増えています。(H24年度からの国の制度充実が大きな要因)。現在市内に15ヶ所あります。そのうちの1つ「エントランス」に見学に行きました。



「エントランス」は、“児童発達支援”と“放課後等デイサービス”を行っている市内の事業所です。対象は、発達に支援が必要な小学生～高校生。簡単にいうと「エントランス」は、発達に支援が必要な子どもたちに学習や生活の支援をしたり放課後に過ごせる場所を提供したりしている事業所なのです。

「エントランス」は、とても熱心に事業を展開されているとの噂を耳にしていました。私自身、発達障がい児の支援を充実させたいとの強い思いがあり(議会で何度も発言)、このたび見学させてもらった次第です。エントランス(当事者)が直面している課題を知ること、**行政が支援すべき事・不足している事・改善すべき事などを明確に把握したかったのです。**

■課題はなんだ？！

●相談支援員の充実

相談支援員(介護保険のケアマネージャーみたいなもので、個別の支援計画を立てたりする)が不足しているとのこと。伊丹では、市の事業所である“たんぼぼ”相談支援員(2名)で、ほぼ全市をカバーしています。明らかに人材不足！(この2名はおそらく超オーバーワークなはず)。この課題は以前に議会(2012年3月)でも訴え、1名増えた経緯はあるもののまだまだ。**相談支援員の増加がやはり喫緊の課題**です。

●手続きなどの効率化

支援に関わる手続きの方法は、基礎自治体が各自で取り決めて実施しています。伊丹は他市と比べると悪くはないもの、改善の余地もある模様。例えば、提出書類の電子化・受給者証の早期発行・・・など。とにかく、**手続き的な点も発展途上**のようです。いっそう整備を進めていきたいものです。

●利用待機者への対応

エントランスでは、利用を待っている**待機中の子どもがたくさん**いるそう。エントランスだけの問題ではなく、**市として支援の充実**を考えねばなりません。

●ソフトの充実

エントランス所長さんの「**ハード整備も大事だが、ソフト充実も大事**」とのご指摘にハッとしました。私は仕事柄つい整備状況が気になってしまうのですが(整備されていると安心する)、真に大切なのは中身だと教えていただいたわけです。表面だけを見るのではなく、**ハートで中身を感じることも大切にしよう**と改めて思いました。

■いっそうの支援を！

発達障がい児の支援は発展途上であり、改善点はまだまだ山積です。特に人材不足は喫緊の課題。ただ、各人の熱い思いを元に、**急速に充実していることも実感**します。期待すると同時に、引き続き*いっそう*全力で支援していきます。